

## 『いのちのりレー』 ～ 歌詞に込めた祈りと誓い ～

令和7年6月2日

6月は、沖縄にとって特別な意味を持つ月です。23日の慰霊の日に向けて、豊崎小学校でも講師や保護者の読み聞かせを通して平和を考えることになりました。私は日頃から「戦争」について考えたり、戦争に関連する著書を読んできました。私にも理由は分かりませんが、子どもの頃から「戦争」に強く関心があったのです。今年は、先生方も承知の通り、戦後80年の節目の年です。3年前にはR国のウクライナ侵攻に強いショックを受け、漠然と第3次世界大戦や核兵器使用による人類の絶滅を思ったりしました。昨年には、I国のガザ侵攻。先月のインドとパキスタンの緊張など、80年前の惨劇が繰り返さないとは言えない状況を呈しています。

豊崎小学校でも校内放送で流される曲「いのちのりレー」。この曲は戦後70年の年に、キロロのお二人とHYの仲

囁くような風が月桃の葉を揺らす  
あなたの笑顔にありがとう  
当たり前の日々ありがとう  
空には虹が輝いて  
でも それだけじゃ ただ それだけじゃ  
その瞳は何を描いてゆくのか？

宗根泉さんと「さんご」と言うユニットを結成して歌ったのが「いのちのりレー」です。歌の出だしにある「笑顔にありがとう 当たり前の日々ありがとう ～ でも それだけじゃ ただ それだけじゃ その瞳は何を描いてゆくのか？」という歌詞は、私には、幸せな日々を送れることに感謝するだけでいいのか？ただ、それだけでは大切な何か失われていくのではないのか？と今と未来を生きるあなたは何を思い描いて生きていくのか？と、問われているように聞こえます。



モノクロの写真が私に問いかける あなたは 今 幸せですか？  
赤い海 黒い空の色をどれだけの方が知っていますか？  
でも 生きている そう ここにいる  
大切な命をつないでいくよ ～ あなたの為に歌うよ わたしが語り  
継ぐいのちのりレー あの日を もう二度と繰り返さないように ～

インタビューでキロロの玉城千春さんは、この歌を沖縄のお母さんを代表して歌いたいと言っていました。あの過酷な地上戦を乗り越えて命をつないでくれた先人のお母さんたちへの想い。そして、次の時代に命をつないで「今」を生きるお母さんとしての強い想いが溢れた歌詞とインタビューの言葉です。私ごとで恐縮ですが、百名小学校に勤務していた時、普通は3月に飾るひな人形を6月にも飾っていました。今年もおそらく、近々飾られると思います。実は、このひな人形、沖縄戦時、玉城の糸数「アブチラガマ」(洞穴)で生き延びた旧日本兵の日比野勝廣さんがお世話になった糸数の区民と交流をする中で、沖縄ではひな人形を飾る習慣があまりないと知り、1980年に、当時の玉城幼稚園、百名幼稚園、船越幼稚園に贈呈したものです。日比野さんは人形職人だったのです。百名幼稚園が玉城幼稚園に統合されるのを機に、ひな人形を百名小学校が引きついたので。しかしながら、職員はひな人形が学校にあるのは知っていましたが誰一人として日比野さんが贈呈したものであることを知っている職員はいませんでした。私たちが人間は過去のことを忘れて、ないがしろにする傾向があるように思います。ですが、忘れてはいけない過去もあり日比野さんが平和への思いを込めて贈ったひな人形の存在が残念ながら忘れ去られようとしていたのです。その日比野さん、多くの戦友を沖縄戦で亡くし平和の大切さを説きながら戦友の慰霊のために亡くなるまで110回以上沖縄を訪れました。今、ウクライナやガザで子どもを亡くした母親の悲痛な叫びが報道されるたび心苦しい気持ちになります。「あの日を もう二度と繰り返さないように」私たちは、今一度、平和教育の大切さを考え、子ども達の心の中に「平和の砦」を築く取り組みをしなければなりません。「平和」は弱く、その力は簡単に瓦解されます。平和に感謝するだけじゃ、ただそれだけでは平和は守れないことを時代は証明しました。戦争を起こすのは人間です。その戦争を防ぐのも人間です。どちらの立場の人間でいたいのかは、1年生でも分かる問いですが、それでも人間の歴史は戦争を繰り返しているのです。忘れてはいけない過去、繋ぐべき過去があるのです。

